



昨年度の表彰式の様子

平成30年11月28日（水）

公益財団法人 愛知県農業振興基金

担当 森、岩橋

電話 052-951-3626

愛知県の農業・農村の振興や発展に尽力した方を表彰します ～平成30年度愛知農業賞（あいちアグリアワード）表彰式～

公益財団法人愛知県農業振興基金では、本県の農業・農村の振興や発展に尽力した個人や団体を表彰する「農業振興功労者表彰事業（表彰名：愛知農業賞（あいちアグリアワード）※¹）」を平成18年度から実施しています。

この事業は、愛知県で50年余にわたって表彰を続けてきた「山崎賞」「岩槻賞」という権威ある農業賞を継承し、両賞の理念を引き継いだものです。

この度、下記のとおり平成30年度愛知農業賞（あいちアグリアワード）の受賞者が決定し、表彰式を開催しますのでお知らせします。

記

1 平成30年度愛知農業賞（あいちアグリアワード）受賞者※²

（1）担い手育成部門

堀江 佐尚 様（ほりえ さなお）（南知多町 75歳）

平成6年に完成した国営農地開発事業南知多地区内でいち早くキャベツなど露地野菜の機械化による大規模経営を確立した。知多地域の担い手を育成するため、他地域からの新規参入者を研修生として受け入れ、地域での就農支援や継続的な栽培技術指導などを行ってきた。

現在では、その研修生達も地域のリーダー農家に成長し、新たな研修生の受入れ農家となっている。氏の取組をきっかけに地域の農業者が新規参入者を育成する「広がりシステム」が構築されたと言え、知多地域の担い手の確保育成に果たした氏の功績は大きい。

また、農業委員、土地改良区理事、農用地利用組合長、農協理事などを歴任し、後継者の泰之氏に経営移譲した現在でも、担い手の確保育成や地域農業の振興に貢献している。

(2) 農業・農村振興部門

熊澤 宣明 様 (くまざわ よしあき) (一宮市 68歳)

農業従事者の高齢化や減少が深刻な問題となることにいち早く気づき、地域農業の維持、発展のためには専業農家の育成や地域農業のイメージアップが不可欠と考え、様々な活動に取り組んできた。

当時 JA が単独で主催していた農業塾の取組を、地元2市を巻き込こんで規模拡大し、「はつらつ農業塾」へと発展させる立役者となったほか、当該農業塾の卒塾生を専業農家として自立させるための継続的な支援も行った。

また、環境保全型農業に関心が高く、エコファーマー制度の発足と同時に自らが所属する部会組織に働きかけ、部会員全員をエコファーマーとした功績は、地域農業のイメージアップや農業所得の向上に大きく貢献した。

水稲と露地野菜の複合経営で規模拡大を進め、モデル的な経営として地域で評価される氏は、レンゲを使用したコメ作りで特別栽培の認証を取得、JA のプライベートブランドとして販売するなど、地元農産物の認知度向上に大きな役割を果たしている。

氏は営農部会長、農業委員会長、農協組合長などを歴任し、それぞれの立場で優れた指導力を発揮、地域の農業・農村振興に大きく貢献している。

※本賞にはこのほかに「技術改善部門」があるが、今回は該当者なし

2 表彰式

(1) 日 時

平成30年12月19日(水) 午後2時から午後4時まで

(2) 場 所

JAあいちビル14階 大会議室

(名古屋市中区錦三丁目3-8)

(3) 主 催

公益財団法人愛知県農業振興基金

(4) 内 容

表彰状、副賞の授与式

受賞者記念講演(受賞者1名につき20分程度)

※1 賞の概要については別紙1を参照

※2 受賞者の詳細な経歴、受賞理由については別紙2を参照

愛知農業賞（あいちアグリアワード）について

1 目的

本県の農業・農村の振興に尽力し、その功績が特に顕著で他の模範となる者を表彰することにより、後に続くものが、自信と誇りを持ってその振興に取り組むことを助長し、もって農業・農村の継続的な発展に資することを目的とする。

2 表彰制度創設の経緯

愛知県には50年余にわたって表彰を続けてきた「山崎賞」「岩槻賞」という権威ある農業賞があった。山崎賞は農業教育に貢献した教育者や農業者、優秀な農業に関する論文やプロジェクト成果を修めた学生に贈られていた。岩槻賞は農業技術の開発や改善、普及に貢献した技術者や農業者に贈られていた。

平成17年度に両賞を運営していた財団法人が各々解散した際、公益財団法人愛知県農業振興基金^{*}が残余財産を継承し、両賞の理念を引き継いで「あいちアグリアワード」として平成18年度からスタートした。

なお、平成26年度から名称を「愛知農業賞（あいちアグリアワード）」に変更している。

※公益財団法人愛知県農業振興基金

優良種苗の供給、高度な営農技術の開発・普及、農産物のブランド確立、優秀な後継者の育成・確保などについて、農業者の創意工夫を活かした取り組みを促進し、愛知県の農業・農村の振興に寄与することを目的に、平成3年に愛知県と農業団体の出捐により設立された。

3 表彰の対象者等

表彰の対象者は、個人または団体とし、愛知県の農業・農村の振興に顕著な功績を挙げたものとする。

表彰部門は、担い手育成部門、技術改善部門、農業・農村振興部門の3つとする。

4 推薦・選考方法

推薦基準に基づき、県関係機関、市町村、農業協同組合等が候補者の推薦を行う。受賞者の選考は学識経験者等で構成する審査委員会で行い、理事長が決定する。

5 賞の内容

表彰状及び副賞30万円を贈呈する。

担い手育成部門



南知多町

ほり え さ なお
堀 江 佐 尚

堀江佐尚氏は、平成6年に完成した国営農地開発事業南知多地区内でいち早く露地野菜の機械化による大規模経営を確立しました。キャベツ、ブロッコリー、タマネギ、スイートコーンなどの栽培面積は延べ15haに上り、地域のトップクラスであります。

当時、担い手候補が多くなかった知多地域において、国営事業地区に入植した多くの新規参入者に対し、身近な先輩として栽培技術指導や経営相談を行い、経営確立を支援しました。

平成21年から露地野菜での就農をめざす研修生の受入れを開始し、平成24年度に始まった国の青年就農給付金（現 農業次世代人材投資資金）制度では「準備型」の研修機関として県の認定を受け、その指導者として研修生の指導を行うなど、これまでに計5名の研修生を南知多町・武豊町で就農に導きました。就農後も継続的に栽培技術指導や様々な相談に対応した結果、これらの研修生の経営は順調に規模拡大し、作付面積の増加率は2.4倍(就農時と現在の比較、5人の平均)となっています。

さらにその卒業生達が地域のリーダーとなり、新たな研修受入れ農家として担い手育成に携わる「広がりシステム」を構築しました。

また、農業委員、土地改良区理事、農用地利用組合長、農協理事などを歴任し、後継者の泰之氏に経営移譲した今でも担い手の確保育成及び地域農業の振興に貢献しています。

農業・農村振興部門



一宮市

くま ざわ よし あき
熊 澤 宣 明

熊澤宣明氏は、一宮市西成地区で水稲と露地野菜の複合経営を行っています。新しい栽培技術の積極的な導入と機械化により経営の効率化を図り、複合経営による規模拡大を実践してきました。複合経営が経営リスクを減らし、経営の安定につながることや、地域の農地を守る手法として優れていることを関係者に示してきました。その影響で、新規就農者を含め、近隣農家でも水稲と露地野菜の複合経営が近年増加しています。

農業従事者が年々減っている中、地域農業の維持、発展のためには専業農家の育成が不可欠ということで、JAが主催する農業塾の取組を拡大し、地元2市を巻き込んだ「はつらつ農業塾」へと発展させています。氏は農業塾の発足当初から運営に深く関わり、「担い手育成コース」の卒業生を専業農家にすべく、積極的に支援を行ってきました。支援を受けた卒業生は地域へ早く溶け込み、活躍することができるようになってきており、将来の担い手候補となりつつあります。

環境保全型農業にも関心が高く、エコファーマー制度が発足すると同時に、尾張農協ダイコン部会の部会員全員の取得をすすめました。

また、レンゲを利用した米作りによる特別栽培米地域ブランドの創設や、家庭及び事業者から排出される食品残さの堆肥化実証試験などに取り組み、野菜生産に堆肥を使用することにより再資源化を図る「地域循環システム」の確立にも貢献しています。

このほか、営農部会長、農業委員会長、農協組合長などを歴任し、氏の優れた指導力は地域の農業・農村振興に大きく貢献しています。